

徳島大学の就職

徳島大学 キャリア支援室



キャリア支援室ではみなさんの夢と希望がかなえられるよう入学後から卒業までの間、さまざまなサポートを行っています。キャリア支援室のミッションは「キャリア教育の推進」と「学生の就職活動の支援」です。今回はその中の「学生の就職活動の支援」についてご案内します。

就職関連情報の提供

キャリア支援室には約1,000社余りの企業個別ファイルがあり、直接手にとって求人票や会社案内を見ることが出来ます。また、キャリア支援室に届く求人票は、全て教務事務システムのポートフォリオ内にある求人情報検索システムに登録されていますので、本学学生なら誰でもパソコンやモバイルから容易に検索することができます。就職に関するさまざまな情報はポートフォリオで閲覧できますが、さらにメール転送設定をしておく、随時、メールで求人情報等を受信することができます。なおキャリア支援室や各学部学科の掲示板、徳島大学生協の食堂やカフェにも情報を掲示しています。

公務員・教員関連資料は都道府県別に採用試験の案内や要項、パ

徳島大学のキャリア支援体制

徳島大学では、「全学共通教育」および「専門教育」とともに「キャリア教育」にも力を注いでいます。本学のキャリア教育は、工学部と総合科学部を対象とした4年一貫の巣立ちプログラムとして平成23年度に始まりました。今年度で4年目を迎え学年進行が完了するのを機に、今後、医学部・歯学部・薬学部等の資格取得を主な目的とする学部も含めて全学展開すべく現在準備中です。

本学のキャリア教育は、「キャリア支援室」が担当しています。「キャリア支援室」のミッションは「キャリア教育の推進」と「就職活動の支援」ですが、後者については前頁をご覧ください。

キャリア学習による 早期の「気づき」

皆さんは大学に入る時点である程度の将来ビジョンを描いていると思いますが、一般にそれは漠としたものであることが多いようです。激動の現代社会では、入学後少しでも早い時期に、社会に出るための大きな関門である就職について真剣に向き合い始めることが必要です。キャリア教育の目的の

就職ガイダンス

自己分析、ビジネスマナー、エントリーシート対策講座、模擬面接など時期に応じて多様な就職ガイダンスを開催しています。講義形式だけではなく、実践型や少人数制講座も取り入れ、きめ細かい指導を行っています。また、県外で開催されるセミナーには大学から無料の往復バスを手配しています。

公務員を希望する学生向けには徳島大学生協と共催で公務員講座も開講しています。

就職相談

就職活動に不安はつきものです。経験豊かなキャリアカウンセラーや就職コーディネーターが就職活動におけるさまざまな質問や悩みに対して、適切なアドバイスや情報提供などを行っています。また、エントリーシートの添削、模擬面接、コミュニケーション指導など、あらゆる角度から的確にサポートします。

各種説明会、徳島大学セカンド キャンパス

就職活動はみなさんにとって交通費などの経費負担となるため、多くの企業から採用担当者を迎えて学内での個別説明会や合同企業説明会、ならびに教員採用試験説明会や国家公務員・地方公務員採用試験説明会を実施しています。また、県外での就職活動の支援として徳島大学セカンドキャンパス（現在は東京、大阪、広島）を開設しています。ここではパソコンやプリンターの利用、更衣室、荷物預かりなどのサービスを受けることができます。

インターンシップ

インターンシップは、自分の適性や能力、将来のキャリアについて実践的に考える機会であり、近年注目されています。インターンシップ情報や手続きについても相談に乗っています。

未内定者の支援

なかなか内定がでない不安になったり自信がなくなったりすることがあるでしょう。自分では気づいていない原因があるかもしれません。これまでの就職活動を振り返り、何が原因なのか、何をもうひと頑張りすればいいのか一緒に考えていきます。

また卒業後も引き続き、就職相談や求人票の閲覧などでキャリア支援室が利用できます。

就職活動は決して簡単なものはありません。しかし、目標を持ち、前向きに積極的に行動することで、さまざまな試練を乗り越えることができます。そして志望先から内定をもらったとき、みなさんはひとまわり成長している自分に気がつくと思います。

就職活動でわからないことや悩みなどがあれば気軽に相談してください。お待ちしております！

キャリア支援部門長からの メッセージ



総合教育センター
キャリア支援部門 部門長
（なりゆきよしふみ）

徳島大学の キャリア教育と 学生のみなさんへの メッセージ

一つは、「就活のためには」①業種・職種、②必要な能力、③自分で知ることが必要である。」という言葉を皆さんに少しでも早く気付いてもらおうことです。その「気づき」が早いほど、自分に不足している知識を吸収するとともに能力を養う準備期間が長くなります。またキャリア学習を通して自分の進みたい方向性が見えやすくなることにより、専門科目等の学習に対するモチベーションが一層高まります。

成行義文



（なりゆきよしふみ）

「社会人基礎力」を高めよう！

近年特に、学生時代に「基礎学力」や「専門知識」とともに、それらを活用していくために必要な「社会人基礎力」を培っておくことが重要となっています。「社会人基礎力」とは、平成18年に経済産業省が提唱した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」の総称であり、①「前に踏み出す力」（主体性、働きかけ力、実行力）、②「考え抜く力」（課題発見力、計画力、創造力）、③「チームで働く力」（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール）の3つの能力（12の要素）から構成されて

学生の皆さんに望むこと

● 様々な年齢・学部・学科の学生と出会えるサークル活動（体育系、文科系、サポート系）は「社会人基礎力」を養う絶好の機会です。積極的に参加して自分を磨いてください。

● 広く社会・経済・文化等に關する基礎知識を得るとともにその動向を知っておくことは就活時にも重要です。そのためには、新聞を毎日読むことをお勧めします。幸いにも皆さんは大学の図書館やキャリア支援室で多種多様な新聞を自由に閲覧できます。何かを考え決断しなければならぬ時、最低限の知識があれば正確な判断はできません。

● 大学時代は利害関係を超越した腹心の友ができる最後の機会と言っても過言ではありません。よい友人をたくさん作ってください。

● 学生、教員、社会人を問わず、できるだけ多くの人々と交わってください。その経験が多いほど人の気持ちが変わり、気が利く人

間”に近づけます。

採用に際して企業等が 知りたいこと

企業等の面接時に「大学時代に専門等の勉強以外で一生懸命やったことは何ですか？」と言う主旨の質問がよくあります。これは企業等が面接学生の採用後の適応性・伸びを推し量る重要な問い掛けとなっているようです。現実的には、クラブ活動やボランティア活動等が高く評価されるようです。これらの活動は、人に語れるほど一生懸命やった人には就活の大きな武器になるとともに将来の自分を支える大きな拠り所となります。また当然ながら学習成績も重要です。それは成績から専門知識・能力の修得レベルだけでなく、皆さんの自己管理能力をも推測することができるからです。

何事も一生懸命やったことになれば、自分を支える真の力にはなりません。明るい未来に向かつて悔いのない学生生活を送ってください。皆さんの今後の発展を心より期待しております。

学部別に見る就職支援

総合科学部

就職委員会委員長
桑原 恵（くわばらめぐみ）

総合科学部では、カリキュラムの中にキャリア教育に関する科目が位置づけられ、大学に入学したときから社会人になる時を具体的に思い描いて、学生生活を送るよう教育しています。学生達は、個々人の「夢」の実現に向かって学生生活を有意義に送っていった下さっているはずですよ。

総合科学部は、文理融合という学部の特徴もあり、学生の進路は多岐に亘っています。公務員や教員をめざす学生も全ての学科にいます。公務員については、学内で公務員対策講座がありますが、教員を志望する学生に対しては、本学部の教職科目を専門とする教員が中心となって、模擬授業対策や小論文対策・専門科目対策ゼミなどが行われ、日頃から実力を付けていくようにしています。このような日常的な指導により、本学部の学生は教育実習にも自信を持って臨んでいきます。

一般企業への就職を希望する学生達については、総合科学部就活サポート室があり、週に2日程キャリアコーディネーターが在室して学生の相談に応じて下さいます。エントリーシートの書き方や面接対策、企業紹介までの就活全般について相談に応じて頂きます。また、本格的に就活をスタートさせる3年生を対象にした支援もいくつか実施しています。特に、来年度は企業の採用活動の時期が変更される初年度でもあるので、これに向けての対策として、就活セミナーも実施しています。そのほか、SPI対策講座、業界セミナーなども実施します。就活を始める前に、企業の業務内容についてよく知ることが大切ですので、できる限り幅広い業種の企業に御願いをし、業界についての知識を深めるようにします。このようなゼミナールは、就職活動の前提となる学生自身の進路決定に大いに役立つはずですよ。このようにして、学生達自身の「やりたい仕事」にマッチした就職につながるような支援を心がけています。



医学科
寺尾 純一（てらおじゅんじ）
医科栄養学科就職委員

平成25年度の栄養学科学生卒業後の進路は大学院進学14名、病院及び医療施設15名、企業に12名およびその他であり、ほぼ例年と同様の結果になりました。医学科や保健学科に比べると管理栄養士の資格を得た上で企業就職を希望する学生が多いのが特徴です。大学院栄養生命科学教育部へ進学した学生の修士卒での就職先は、例年企業が半分程度を占めています。学部生、大学院生とも就職先企業の多くは県内及び県外の食品や製薬メーカーです。最近では県内の企業への就職が増加する傾向がみられます。栄養学科は学科事務室を中心に病院やその他の医療関係への就職支援を含め、以下の方法で学生の就職試験活動を行っています。

- ①徳島大学や医科栄養学科宛にメール、郵便等で届いた求人情報を学科棟内へ掲示
- ②求人情報を綴じたファイルを閲覧

できるよう学科棟2階の専用エリアに設置

- ③不定期に各学生へ求人情報のメールを手動配信
- ④栄友会（徳島大学医学部栄養学科同窓会）ホームページへの就職情報掲載
- ⑤大学で開催されるキャリア支援室主催などのセミナー参加案内送付
- ⑥学科内で開催する企業単位での会社説明会や面談を開催（昨年は2社の大手企業の説明会が開催された）。

是非、学科内の就職支援を積極的にご利用ください。

保健学科就職委員
片岡 佳子（かたおかけこ）



保健学科3専攻では学生の意向を尊重して就職活動を支援しています。全国各地から届く就職情報をいつでも自由に閲覧できるようにし、学生は希望に合う就職先を自主的に考えます。専攻ごとに4年次の4月に卒業後の様々な進路について説明会を開き、その後も進路が決定するまで支援を続けています。就職先に関する相談や探

用試験の準備（面接や小論文の指導等）には就職担当・卒業研究担当教員やキャリア支援センターが個別に対応しています。

看護学専攻では、看護師・助産師・保健師・養護教諭として働く若手の先輩から仕事の内容や就職活動のあり方を紹介してもらったりガイダンスを行い、保健師や養護教諭をめざす学生はさらに採用試験対策講座に参加し、教員や卒業生から実践的な指導・助言を得ています。放射線技術科学専攻では、医療施設・企業・行政・大学院進学などの進路を紹介し、兵庫県病院技師長による就職セミナーを開いています。検査技術科学専攻では、病院・血液センター・都道府県職員・大学院進学などが主な進路です。放射および検査専攻では、夏期休業中の病院等での見学実習を学生に勧めています。病院ごとに違う画像検査装置や放射線治療装置、臨床検査システムやチーム医療活動等を見学・体験することにより職場の雰囲気を感じられると同時に視野が広がり、その後の就職活動に大きなプラスとなっています。

幸い3専攻ともほぼすべての希望者が就職しています。当学科にご縁のある先生方や卒業生の皆様、夏期の病院見学実習を快く引き受

けてくださる各地の病院の皆様方のご協力の賜物だと思っています。この場を借りて厚く御礼申しあげます。

歯学部

口腔保健学科就職委員
伊賀 弘起（いがひろゆき）



歯学部口腔保健学科は、全国でも数少ない4年制の歯科衛生士養成機関であり、同時に社会福祉士の国家試験受験資格（選択制）を取得できるカリキュラムも構築して健康長寿社会に貢献できる新しい歯科医療人の養成に取り組んでおります。これまでの卒業生59名全員が歯科衛生士国家試験に合格しており、社会福祉士国家試験の合格率も高く、平成25年度には合格率100%（全国1位）を達成いたしました。

本学科の代表的な就職支援活動としては毎年、キャリア支援部門の特任講師である山野明美先生にお願いして「ES・履歴書

書き方」の講演会であり、就職活動に対する学生のモチベーションの向上に不可欠な取り組みとなっております。また歯学部学生委員会が主催する「進学・就職ガイダンス」では、卒業生を招いて3年生が将来を考えるための特別講演会を開催しております。この他にも随時、クラス担任や就職担当教員による手厚い相談・援助を行っていることは言うまでもありません。これらの就職支援プログラムの結果として就職率は毎年100%を達成しており、就職先としては大病院や総合病院での歯科衛生士あるいは医療ソーシャルワーカー、地方公務員（衛生行政、福祉行政）、歯科医院（民間）など、それぞれのライセンスを生かした現場へ羽ばたいております。今後も本学科の特徴である口腔保健と社会福祉が融合した新しい人材が活躍できるように就職支援を続けていきたいと考えております。

薬学部

薬学部就職委員長
佐野 茂樹（さのしげき）



徳島大学薬学部には6年制学科（薬学科）が創設され、4年制学科（創製薬科学科）を併設した新しい教育制度がスタートしてから8年9ヶ月が経過しました。本年3月には薬学科の第4期生が卒業を迎えますが、新卒業生が輩出されなかった空白の2年間（平成21～22年度）の影響で、薬剤師職への就職状況は極めて良好に推移しています。一方、創製薬科学科を卒業または卒業見込みの者には薬剤師国家試験の受験資格が与えられません。創製薬科学科卒業生の多くは大学院薬科学教育部の創製薬科学専攻へと進学し、大学院修了後に非薬剤師職への就職を目指します。

薬学部では両学科学生の多様なキャリアニーズに対応するため、全学のキャリア支援室とも連携しながら、各種就職情報の提供はもちろんのこと就職対策講座や企業合同説明会の開催等の就職支援に取り組んでいます。さらに、非薬剤師職への就職を目指す学生への就職支援として、徳島大学薬学部を卒業・修了後に非薬剤師職で活躍されている先輩諸氏による「薬学部就職支援講演会」先輩からのメッセージ」を毎年開催しています。また新たな試みとして、昨年度は四国4県の国立大病院薬

工学部

工学部学生委員長
永瀬 雅夫（ながせまさお）



工学部での学生の就職活動に対する支援については、各学科毎にその特徴に応じた取り組みを行っています。工学部全体を統括する就職担当教員が、1年または複数年に持ち回りで学生に対する就職指導を行っています。また、ほとんどの学科に専任の事務職員がおり、教員と協力して学生の就職活動のサポートを行っています。工学部では卒業生（学士）の6

割程度が大学院に進学します。この大学院進学率は、学科毎、年度毎に変動があり、定常的な数値ではありませんが、多くの学生が学部4年生では就職活動を行わず、博士前期課程に入学してから就職活動を行うこととなります。

各学科の就職担当教員に直接持ち込まれる就職情報も多く、また、各学科単位で個別の会社説明会も多く開催されています。学生が利用できる情報源は、インターネット等の一般公開情報、各学科に集積された情報、キャリア支援室が提供する求人情報と多岐に渡っており、多すぎて絞り込めなくなる事例も多々あります。

ここ数年、徳島大学工学部に対する企業の求人意欲は盛んで、高い就職率を維持しており、就職先に困るという状況ではありません。一方で、目標の定まらない学生は内定にいたるまで紆余曲折する傾向にあるようです。就職についての明確な目的意識を持つことが就職活動での大事なポイントでしょう。

就職活動は 先手必勝

株式会社みなと銀行
木村美香（きむらみか）
平成24年3月
総合科学部人間社会学科卒業



私が就職活動を開始したのは、大学3年の夏インターンシップからです。その経験から、銀行の仕事は、幅広い世代の顧客と関わる事ができ、地元への貢献など私の夢が実現できると考え、

銀行に就職したいと考えるようになりまし。その時から私は、銀行への就職を目標に就職活動をするようになりました。具体的に私が就職活動をする中で大切にしたのは、以下の2点です。

業界・企業研究

業界・企業研究は、志望動機を的確に伝える上で重要です。私は、銀行だけではなく、証券会社や生命保険会社など金融機関を中心に業界・企業研究をしました。なぜなら、銀行の仕事は投資信託などの資産運用や、生命保険のご提案等、様々な業務があるため、金融

自己分析

自己分析では、過去の経験からPRポイントを見つけました。特別な経験をアピールする必要はないですが、根拠をもって自己PRし、相手にポイントを的確に伝えることが大切です。私は、自己PRを考える上で、大学の就職支援の先生に毎週相談に行き

全体で考えるべきだとインターンシップで学んだからです。その経験から、「なぜ銀行か」、「なぜ貴社か」ということを追及していき、自分の経験やPRポイントを加えて、志望動機を固めていきました。

自己分析では、過去の経験からPRポイントを見つけました。特別な経験をアピールする必要はないですが、根拠をもって自己PRし、相手にポイントを的確に伝えることが大切です。私は、自己PRを考える上で、大学の就職支援の先生に毎週相談に行き

ました。学生ではわからない確かなアドバイスをいただき、また、他の人に読んでもらうことで、相手に伝わるかを確認することができました。専門の先生のアドバイスで自信を持つこともできました。私は、エントリーシートの提出や、面接など本格的な就職活動が始まる前に、志望動機と自己PRを固めることで自信を持って就職活動に挑めました。私の就活の成功の秘訣は、「先手必勝」です。先述のように、早期にインターンシップに参加し、志望業界を定めることが出来たため、業界・企業研究や自己分析を十分に行う

ことが出来ました。その結果、自信を持って選考に挑むことができ、志望業界への就職に繋がったと考えています。

また、就職活動を通じて得た「的確に伝える能力」は、社会人になっても役立つと思います。面接で質問に的確に答えた様に、お客様や上司にも、正しい言葉遣いでの確に自分の思いを伝えなければなりません。ぜひ皆さんも学生の間に身に付けて下さい。

最後になりますが、就職活動は先手必勝。明確な目標を持ち、自分のベストを尽くすことです。後悔のないよう頑張ってください。

「準備」が肝心

株式会社 明治
浅田 幸祐（あさだこうすけ）
平成24年3月
大学院先端技術科学教育部修了



私が就職活動で取り組んだこと、良いと感じたことを紹介いたします。皆さんの就職活動がより良いものとなるように少しでも参考になれば幸いです。

を経験しました。学部生時代の就職活動を振り返ると自己分析や企業研究を全くしないまま、就職活動をしていました。そのため、エントリーシートを書く際、私の強みや企業に入りたいことを具体的に書くことができませんでした。また、企業が求めることを理解できていなかったように思います。結果、エントリーシートの段階でほとんど通過できず、1回目の就職活動を終えました。この経験から、自己分析と企業研究の大切さを実感しました。ここから2回目の（大学院での）就職活動に向けて「準備」

が始まりました。自分にはできないことを一つでも増やそうと思い、研究を通じて学会発表や国家資格取得、阿波踊りに挑戦しました。また、友人や両親との他己分析を通じて自己分析に役立てました。さらに企業研究のためにインターンシップへの参加や合同企業説明会等を利用して積極的に意見交流を行いました。これらにより、自分の強みや自分のやりたいこと、企業が求めていることを明確にすることができたと感じます。

イト開設と同時に自分が志望する企業へエントリーし（エントリー企業…20社、選考に足を運んだ企業…2社）、提出物や面接日のスケジュールを立てました。スケジュールを立てることで慌てず、落ち着いて就職活動に取り組むことができました。エントリーシートに関しては企業に印象を残して貰う為にキーワードを盛り込むこと、文に見出しを付けてその見出しの下に補足を加えることを意識しました。また、面接に関しては、言いたいことを端的に分かり易く伝えることを心がけました。結果、エントリーシート・

面接でしっかりと自分を表現できるようにになりました。最後になりますが就職活動は自分で自分をアピールするものだと改めて感じました。就職活動をする上で多くの選択があり、不安や緊張があるかもしれませんが、臆さずしっかりと「準備」をして、臆することなく取り組むことで結果は付いてくると思います。皆さんの就職活動がより良いものとなることを期待しています。



やる気のスイッチを 探し出す

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
神経病態解析分野(薬学系) 准教授
笠原 二郎（かさはらじろう）



笠原先生は九州大学大学院理学研究科生物学を修了後、同大学の医学系研究科分子生命科学系を専攻して理学博士に。その後、熊本大学医学部で助手、日本学術振興会海外特別研究員としてマサチューセッツ工科大学、東北大学大学院薬学研究科講師を経て、2009年の終わりに徳島大学へ赴任してきました。

生命科学を学び医学部教員の経験があるはいえ、12年前に初めて薬学部に着任して苦労もありましたが、理学系からの視点は、授業や研究の幅を広げています。「いろんな学部を経験しましたが、生命科学や分子生物学など、薬学と関係ないことはなく、むしろ深くつながっています。しかし私の理学部や医学部での研究は、生理学的なメカニズムといった観点から入りましたが、薬学に比べて疾患の臨床のことなど、生懸命勉強しました。薬剤師じゃない自分が薬学を教えるということ、最初は緊張感がありました。でも今思えば、生命

